

教材活用シリーズ 第71回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などを紹介します。

道徳の教科化移行期における

教材活用を考える

廣濟堂あかつき(株)
『中学生の道徳』 &
文部科学省『私たちの道徳』

きむら まさひろ
木村 昌弘
(廣濟堂あかつき(株)
編集部 道徳担当)

1. 教科化に向けての今

「道徳教育の充実に関する懇談会」でまとめられた報告（「今後の道徳教育の改善・充実方策について」平成25年12月26日）をうけて、文部科学大臣より中央教育審議会（以下中教審）に諮問された内容（「道徳に係る教育課程の改善等について」）について、現在、中教審初等中等教育分科会教育課程部会道徳教育専門部会にて集中的に審議されています。

道徳の教科化に向けて——正確には「特別の教科 道徳」（仮称）の設置に向けて、その名の「特別」が意味するところは教育課程上の位

置付けなのか、教育内容なのか、あるいは評価の在り方なのかなど、多岐にわたって議論が交わされている昨今ですが、いずれにしても昭和33年の道徳の時間の特設以来、学校における道徳教育についてこれほど大きな変革があったかどうかは論を待たないところです。

では、道徳が教科化された場合、あるいはそれまでのいわゆる教科化移行期に、「道徳の時間」は何かが変わるのでしょうか。現段階においては中教審の答申や改訂学習指導要領の内容、それらを基底とした検定教科書導入の具体内容が明らかではないので、本稿では教科化の提言を踏まえて『心のノート』の全面改訂版として

作成された『私たちの道徳』を手がかりに、移行期における道徳の時間について教材活用の観点から考えてみたいと思います。

2. 『私たちの道徳』の登場

今春、文部科学省が全国の小・中学校に配布した道徳教育用教材『私たちの道徳』は、前身である『心のノート』を「道徳の時間においてより活用しやすい内容・構成とする」という前提のもとに作成されました。最も大きな特徴として新たに「読み物資料」が加わったことにも、その方針が色濃く反映されているといえるでしょう。換言するにそれは、今までも、そしてこれからも、道徳の時間において読み物資料が中心的な教材であることの証左に他なりません。

しかしながら読み物資料が加わったからといって、『私たちの道徳』のみで道徳の授業が構成できるでしょうか。中学校を例にとると、3年間で105時間ある授業時数に対して、『私たちの道徳』の掲載資料数は9編、「道



『私たちの道徳 中学校』
(中学校用及び小学校5・6年用の市販本は廣濟堂あかつきで取り扱っています)

徳の内容（中学校では24）をいずれの学年でも取り上げる」という学習指導要領が示す取扱いの要件を持ち出すまでもなく、不足は言わずもがなです。格言や書き込みページ、コラム等も大いに活用されることと思いますが、格言・書き込みページは無論、コラムについても「道德の読み物資料としての工夫が凝らされているわけではないから、これ自体を中心的な資料として扱うのは難しい」（※）という澤田浩一文部科学省教科調査官の言葉をお借りすれば、それらは性質上、補遺の役割を担うことはあっても主役にはなり得ないということができるといえるでしょう。量的にも質的にも『私たちの道德』のみをもってしてはすべての道德の時間が担保されず、加えて少なくとも検定教科書導入までの教科化移行期においては道德の時間の主役が依然として読み物資料である以上、副読本が重要な教材であることに異論を挟む余地はなさそうです。

3. 副読本『中学生の道德』と『私たちの道德』との効果的な併用

そこで、廣濟堂あかつきでは、当社道德副読本『中学生の道德』と『私たちの道德』との関



『中学生の道德』

わりを考えた、『道德教育の視座 特別号―私たちの道德―を考える』を刊行いたしました。本冊子では、『中学生の道德』掲載の読み物資料と『私たちの道德』の関連を示す一覧表や、副読本に掲載している105の読み物資料すべてについて、道德の時間における『私たちの道德』の具体的な活用場面を例示するなど、『中学生の道德』の具体的な活用場面を例示するなど、『中学生の道德』と『私たちの道德』との効果的な併用方法をご提案しています。授業が始まる新学期にはお届けしたいとの思いで制作しましたので、『私たちの道德』を使った実践がなされていらない段階で十分な活用例が示しできたかどうかは、ご活用いただいている先生方のご判断を仰ぐところですが、いずれにせよ、副読本の編集者としてはもちろん、『私たちの道德』（小学校5・6年用及び中学校用）の作成業務を受託し、編集に関わらせていただいたひとりとしても、両書の特質を生かした道德の時間が展開されることを願っています。

で採用した澤田浩一教科調査官の『私たちの道德』の活用についてのインタビュー記事を掲載しています。無料のパンフレットですので、ご興味・ご関心がございましたら当社営業部（03-3577-8966）までお申し付けください。



4. おわりに

読み物資料を軸としながら『私たちの道德』をうまく生かしていくこと、そして、道德の時間における読み物資料、とりわけ副読本の重要性について論を進めて参りました。子どもたちの明日を真摯に見つめる監修者をはじめ多くの編集協力者の慧眼に支えられ、道德の時間の充実に資する読み物資料の吟味・精選にこだわりの続けてきた『中学生の道德』。人間の在り方生き方を考える道德教育、その要となる道德の時間に、教師と生徒が共に考え共に語り合うことのできる読み物資料のある読み物資料を、これからも開発して参りたいと思います。

※『道德教育の視座 特別号―私たちの道德―を考える』(2014 廣濟堂あかつき)